

16. ^{67}Ga シンチグラフィで心臓部に集積を示した 2 症例の検討——悪性リンパ腫及びサルコイドーシスの心臓侵襲——

岸本 理和 入江 五朗 (北大・放)
 伊藤 和夫 塚本江利子 古館 正徳
 (同・核)
 小林 一 (同・三内)
 鈴木久美子 (函館中央病院)
 大塩 至 (北大・二病)

^{67}Ga にて診断しえたサルコイドーシスおよび悪性リンパ腫の心臓侵襲の 2 症例を報告した。サルコイドーシスの症例は心臓部と左腎に Ga の集積を認め、左室壁の生検にて非乾酪性類上皮細胞結節を認めたが、ステロイド治療によりこれら集積は消失した。悪性リンパ腫の症例は心臓部に集積を認めたが、治療を行えないうちに上室性頻拍から心不全となり死亡した。剖検により左室壁に壊死を認め、腫瘍細胞の浸潤を認めた。これらは心臓侵襲が死因の原因となることが多く剖検時には 20-30% に認められるといわれているが、症状も非特異的であり生前に診断がつく頻度は低い。これらの疾患は治療に対する反応性が良好であり、積極的な診断・治療が望まれる。 ^{67}Ga スキャンはこれらの病巣描出に対し sensitivity が高く、またその活動性や治療効果の判定に有用であり、積極的に施行すべき検査であると思われた。

17. ^{111}In -Antimyosin 心筋イメージングの臨床応用

高橋 恒男 加藤 邦彦 柳澤 融
 (岩手医大・放)
 中居 賢司 (同・臨検)
 盛合 直樹 肥田敏比古 (同・二内)

心筋細胞壊死巣の描出を目的として ^{111}In 標識抗ミオシンモノクローナル抗体-Fab (^{111}In -Antimyosin) 心筋イメージング (Planar, SPECT) の臨床応用を急性心筋梗塞 6 例と各種心筋疾患 4 例 (急性心筋炎 2 例、拡張型心筋症 1 例、心サルコイドーシス 1 例) を対象に検討した。

その結果、発症 2 週以内の心筋梗塞例の 66% 以上に陽性像が認められた。但し、Planar 像では、下壁梗塞で肝集積により判読困難な例がみられたことより、SPECT 像による検索が不可欠と思われた。その他の心

筋疾患では、発症より撮像までの時期がさまざまであったが全例陽性像が得られ、持続的な心筋細胞障害の存在が示唆された。

以上より、 ^{111}In -Antimyosin 心筋イメージングは各種心筋疾患における心筋細胞障害の存在の有無や経過、予後の評価に有用な非侵襲的検査法といえる。

18. ^{123}I -MIBG 心筋シンチグラフィの使用経験

木村 元政 酒井 邦夫 (新潟大・放)
 石田 均 (立川総合病院・放)
 松岡 東明 (同・内)

^{123}I -MIBG と ^{201}Tl の 2 核種同時収集心筋シンチグラフィを、虚血性心疾患 18 例 (急性心筋梗塞 5 例・陳旧性心筋梗塞 8 例・狭心症 5 例) と肥大型心筋症 1 例に施行した。まず PLANAR 像にて周囲臓器 (肺・肝) への集積を検討した。肺への集積では、 ^{201}Tl の集積増加が 3 枝病変症例にのみ認められたのに比し、 ^{123}I -MIBG では疾患群間に差はなく増加する症例が多かった。肝への集積では ^{123}I -MIBG の集積は ^{201}Tl より明らかに増加し、特に遅延像でその傾向が顕著であった。SPECT 像での心筋集積の検討では、虚血性心疾患では ^{201}Tl より広範囲に集積低下部位が認められ、肥大型心筋症 1 例では、 ^{123}I -MIBG でのみ局所的に集積低下部位が出現し、なんらかの交感神経機能の低下を示唆する所見を示した。

19. 下大静脈奇型と血流シンチグラフィ

宮崎知保子 広村 忠雄 手戸 一郎
 (市立札幌・中放)
 大橋 伸生 (同・泌)

下大静脈の走行異常は CT 検査時などに偶然発見される場合が多い。臨床問題となることはほとんどないと思われるが、血流シンチグラフィは、その全体の走行像と血流の程度を確認する意味で簡便かつ非侵襲的に行なえる検査法として有用である。今回、下大静脈奇形のなかの transposition, duplication, absent hepatic and infrahepatic segment of inferior vena cava with azygos continuation の各症例を呈示した。さらに出生後まもなく後腹膜奇形腫の手術を受け、30年後再度後腹膜腫瘍が認められ、CT 検査にて腎静脈レベル以下の下大静脈が